

## 大会宣言 (案)

本日私たちは第33回定期大会を開催し、むこう1年のたたかう方針を確立しました。

小泉内閣は、去年の年金改悪につづき、今年は介護保険法の改悪、障害者に多大な負担を押しつける障害者自立支援法の成立をねらい、国民のくらし破壊を加速的にすすめています。また6月21日に政府税調は、サラリーマン増税をうちあげ、07年消費税二ケタ増税とともに、労働者・国民に耐えがたい痛みを押しつけようとしています。

7月5日に小泉内閣は、「改革の本丸」と称して「郵政民営化」法案を衆議院議員本会議で可決、参議院でも審議を抜きにして法案成立を強行しようとしています。

いっぽう、憲法改悪にむけた動きが急速に強まっています。自民党は「改憲要綱・第一次素案」を発表しました。その内容は前文に「天皇条項」をもりこみ、戦力保持の明記によって、9条を改悪、日本を「戦争する国に転換する」ことを明らかにしています。

トヨタをはじめ大企業は、空前の利益をあげています。しかしその利益の源泉は、リストラ強行、中小企業への徹底したコストダウンなどによってもたらされたものです。職場での働くルールは破壊され、労働者を身心ともに耐えがたい状態に追い込んでいます。

### 組合員のみなさん

こうした小泉悪政と、大企業の横暴に対して、正面から立ち向かうことがますます重要になり、労働組合運動への期待も高まっています。

フリーター・ニートの増大、不安定雇用労働者の増大、高齢者・障害者への大幅な負担増、そしてサラリーマンには増税という小泉政治に、いま国民の怒りの声がひろがりつつあります。7月3日投票の東京都議選の結果は、議席のうえでは民主党が伸びていますが、無党派層のなかで「二大政党制」による悪政推進に「ノー」の声が示されました。

さらに戦後60年・被爆60年を機に、憲法改悪反対、首相の靖国参拝ノー、「つくる会教科書」反対など、核兵器廃絶・平和を求める声は、これまでにない高まりをみせています。こうした声をひとつにし、くらしと平和を守る運動を築きあげていくうえで、労働組合が果たす役割はこれまで以上に大きくなっています。

### 組合員の皆さん

運動を前進させるためには、労働組合そのものを大きく強くしなければなりません。愛労連は「組織強化拡大3カ年計画」によって、この間多くの仲間を迎え入れました。とりわけ派遣や請負労働者など、これまでにない雇用形態の労働者の組織化が前進しつつあります。しかし、組織拡大は緒についたばかりです。引き続き組織拡大に全力をあげて奮闘しましょう。全国の仲間とともに、トヨタ総行動をはじめ大企業の社会的責任を迫る運動をおおきく前進させましょう。

全労連は今春闘で「もうひとつの日本は可能だ」というスローガンをかけました。リストラや下請け切捨てでなく、また社会保障切捨てでなく、安心してらせる社会、安心して働ける職場をともにつくろうと、すべての労働者・国民によびかけ、共同を大きく広げましょう。

以上、決議します。

2005年7月24日

愛知県労働組合総連合第33回定期大会